

乳がんの新しい分子標的治療薬

「乳がん高度検診・治療センターNEW—す」では毎月乳がんについての最新情報を提供しています。今月号では乳がんの新しい分子標的治療薬について解説します。

分子標的治療とはがん細胞のもつある特定の分子を狙い撃ちする治療法で、抗がん剤治療(化学療法)、ホルモン剤治療(内分泌療法)などと並んで乳がん薬物療法の3本柱のひとつです。分子標的治療薬は抗がん剤に比べて正常細胞へのダメージが少ないのが特徴です。分子標的治療薬としては、すでにHER2(ハーツ)陽性の乳がんに対してハーセプチンが常用されていますし、その他タイケルブ、アバスチンなども一部の患者さんに使用されています。

近年この領域での新薬開発はめざましく、以下に示しますのはいずれもごく最近市販された、あるいは近日中に市販される予定の分子標的治療薬です。いずれも再発した乳がんのうちある特定の性質をもつごく限られた患者さんのみが対象となります。



【パージェタ】

パージェタ(一般名ペルツズマブ)はハーセプチンと似た薬剤で、HER2陽性乳がん、HER2タンパクにくっつくことで効果を発揮します。ハーセプチンと抗がん剤治療で効きにくくなった再発乳がんが対象となり、ハーセプチン+パージェタ+何らかの抗がん剤(ドセタキセルなど)、の組み合わせで使用され、単独では用いられません。心毒性など併用薬剤の副作用以外に下痢や発疹に注意が必要です。

【カドサイラ】

カドサイラ(一般名T-DM1)はハーセプチンにDM1(メイタンシン)という抗がん剤をくっつけた薬剤で、もうすぐ市販される見込みです。HER2陽性でハーセプチン+タキサン(ドセタキセル、パクリタキセル、アブラキサンなど)で効かなくなった再発乳がんが期待されています。分子標的治療薬と抗がん剤の複合体というユニークなコンセプトの薬剤です。消化器症状、疲労感、肝機能障害、血小板減少などが主な副作用です。

【アフィニトール】

アフィニトール(一般名エベロリムス)はがんの増殖に関連するmTOR(エムトール)タンパクという物質を阻害する薬剤です。切除不能や再発した腎細胞がんなどで保険適応になっていましたが、このたび「手術不能又は再発乳癌」が適応追加となりました。乳がんでは、主としてアロマシンというホルモン剤との併用で使用され、効果が認められています。副作用としては、口内炎、疲労感、非感染性肺炎、貧血、肝機能障害などに注意が必要です。

こうした分子標的治療薬は大きな副作用なしにがんを抑え込む効果が期待されていますが、必ずしも理屈通りにいくとは限りません。患者さんの病態などにより担当医とよくご相談の上使用するかどうか決定されることになります。いずれも高額な治療となりますが、「高額療養費制度」により一定額(自己負担限度額)を超えた金額は支給されます。



詳細は乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。